

〔例題 1〕 社会福祉法人に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 社会福祉法人の所轄庁は、行う事業が二つ以上の都道府県の区域にわたるものについては厚生労働大臣であるが、それ以外の場合はいずれも、主たる事務所が所在する市町村にかかわらず、主たる事務所の所在地の都道府県知事である。
2. 社会福祉法人は社会福祉事業のほかには、公益事業を行うことができるが、収益事業を行うことはできない。
3. 2017（平成29）年 4 月に施行された改正社会福祉法では、社会福祉法人は、監事を選任することが義務付けられたが、評議員会の設置は引き続き任意とされた。
4. 2017（平成29）年 4 月に施行された改正社会福祉法では、社会福祉法人のうち、純資産の額が事業の継続に必要な額を超えるものについては、社会福祉充実計画を作成し、所轄庁の承認を受けなければならなくなった。
5. 2017（平成29）年 4 月に施行された改正社会福祉法では、社会福祉法人は、定款、収支計算書、現況報告書を所轄庁に届け出ることが義務付けられたが、公表については努力義務とされた。

〔正答 4〕

〔例題2〕 次のうち推論の種類の一つである演繹的推論の例として妥当なのはどれか。

1. Aさんは、初めて訪れる国で、数人の陽気な人と話をして、「この国の人は陽気だ」と推論した。
2. B高校新聞部では、ランダムに選んだ50人の生徒に取材して得た情報をもとにして、生徒会長候補者の当落を推論した。
3. ある幼児が「おなかがすくと元気がなくなった」という経験から、「植物に水をあげないと枯れる」と推論した。
4. Cさんは「鉄は電気を通す」という法則を知っており、ある物体Xが鉄であることを知ると「物体Xは電気を通す」と推論した。
5. ある小学生が、生活経験で得た水圧と水流の関係に関する知識から、電圧と電流の関係について推論した。

〔正答4〕

〔例題3〕 「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 認知症の人の状態は、周囲の人々やケアの状態を反映する鏡であるとされることから、認知症の人を支える側の視点に立ち、介護者主体の医療・介護等を徹底する。
2. 認知症の人がなじみの暮らし方を継続できるよう、発症予防、発症初期、急性増悪時、中期、人生の最終段階という認知症の容態の変化にかかわらず、常に自宅において医療や介護を提供することを目指す。
3. 小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催したり、大学生に対して認知症介護指導者養成研修を行ったりすることで、児童・学生の認知症への理解を促進する。
4. 「認知症ケアパス」は、認知症の人が自ら作成する医療・介護サービスの計画と定義されるが、個々の認知症の人の意思を尊重した認知症ケアパスが実現できるようサービスの多様化を図る。
5. 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

〔正答5〕